

2023年度 第4回 藤沢市立六会中学校 学校運営協議会会議録

開催日時 2024年 2月 26日（月）10時～
場 所 六会中学校 第1会議室

出席委員	五十嵐 直美（六会地区青少年育成協力会 会長） 大石 由佳（六会中学校 校長） 滝内 洋子（学園都市むつあい協力者会議 会長） 平岡 善通（天神地区社会体育振興協議会 会長） 堀田 英二（六会地区自治連合会 会長） 堀口 陽子（六会地区民生委員児童委員協議会 会長） 梶水 宏（桜ヶ丘自治会 会長） 江添 達男（六会市民センター長） 角田 督（六会中学校 PTA 会長） 浅場 純子（六会中学校 教頭）
次第	1. 開会 2. 議題 「学校評価について」 3. 報告 「学習支援状況について」 4. 各委員から 4. 閉会
協議内容	2. 議題 ○2023年度の本校学校評価については、生徒、保護者ともにおおむね肯定的な回答を得られている。キャリア教育の充実、情報発信の工夫など課題として取り組んでいきたい。一方で、回答率についてはオンライン回答となり低くなっており報告の正確性が担保されないため、今後は回答率を上げていくことも検討課題である。（教頭） ・「中学校卒業後の進路について情報を知らせてくれる」という設問の「卒業後の進路」とは具体的に何を指しているのか。（平岡委員） ・高校進学についての具体的な情報の意味合いもあるし、将来的な予備知識という意味もある。（校長） ・回答率が低いと肯定的な意見よりも否定的な意見に目を向けた方が良いと思う。進路についての回答は、保護者の進路に関しての関心が高まっていることの表れだと思う。学校と保護者の意識の乖離を埋めていけば良いと考える。今回の評価については、学校が学校教育目標のもと学校運営を行っていることが分かるので、おおむね評価できる結果である。保護者が学校に何を求めているのか、学校が学校教育目標に沿ってやって来ていることを理解しているのか、は見えづらい。卒業後の進路の設問については、学年によって回答が異なることが考えられるので、単純に保護者の評価と考えるのではなく学年ごとの回答率なども見る必要があるかも知れない。（江添委員） ・友達関係で楽しいとか学校が楽しいとかが全ての始まりだと思う。保護者も生徒も同じ。「学校が楽しい」が「そう思う」40%という回答は少ないと思うので、もっと増えてほしい。引きこもりの問題も個々がアップすると変わって

くる。(堀田委員)

- ・進路についての回答については、学年によって比較をする必要があるかもしれない。学年ごとの回答を分析できるとよいと思う。(堀田委員)
- ・保護者の回答率が低いことは問題がある。回答についてリマインドをする必要があるのではないか。(角田委員)
- ・このアンケートの回答は時間がかかるものなのか。(片岡委員)
- ・Google フォームでの回答。オンラインで携帯でも回答できるためそんなに時間はかからない。(校長)
- ・「災害等の安全面に取り組んでいる」について保護者の肯定的回答が低いのが気になる。「ややそう思う」も入れると低くはないので信憑性は分らないが、この点は様々発信した方がよい。(角田委員)
- ・防災については今後力を入れていく。防災訓練の持ち方等も来年度は改善していく。(校長)
- ・「学校に行くのが楽しい」の設問に対する生徒の回答について、先生方はどう思っているのか。(角田委員)
- ・もちろん「そう思う」生徒が増えてほしいと考え、日々先生方も頑張っている生徒と向き合っている。(校長)
- ・やはり学年別の回答が分かると楽しい、楽しくないも分析しがいがあるのではないか。学年の特徴などもあると思うのでそのような情報もみたいと思う。学年ごとなど、似たようなアンケートは他にとっているのか。(五十嵐委員)
- ・学校生活アンケートを学年ごとに年間で数回やっている。(校長)
- ・回答率が低いのはどうすれば良いか。(滝内委員)
- ・授業参観などで配るのはどうか。(五十嵐委員)
- ・二次元コードを載せることもよいのでは。(角田委員)
- ・紙でのお知らせ、連絡メールでのお知らせもしている。(校長)
- ・進路についての設問は考えた方がよい。保護者は逆に学校から何を知りたいのか、もっと具体的に説明会があったら行ってみたいか、など聞いてみる方がよいのではないか。(五十嵐委員)
- ・回答率は低くても、このアンケートに回答する保護者は問題意識がある、意見がある人たちの回答であるということで、肯定的に捉えることも出来る。(堀田委員)
- ・有時の際は保護者との連携が必要になる。災害時にどういう対応をすべきかを保護者も知っているか、この点は学校としても知りたい内容であると思う。(江添委員)
- ・避難訓練等実施しているが訓練で終わっている側面がある。訓練のやり方を変えていきたいと考えている。(校長)
- ・防災について考えることは大切。学校単体で考えることは大変で、保護者や地域の力も必要となる。(角田委員)

3. 報告

- ・2023年11月以降、堀田委員に放課後学習指導、外国につながりのある生徒2名への日本語指導をしていただいている。